



🌱 目次

生産現場情報 ：	次世代の夢と未来をつなぐ！地域農業担い手法人 ～農事組合法人 ファーム夢未来～	P 1～3
営農支援情報 ：	「野菜」の春の管理作業のポイント	P 4
ご 紹 介 ：	コスト低減に向けた「農業機械の共同購入」の取り組みについて JAグループ「秋田米新品種サキホコレ研究会実績報告会」を開催 「秋田県農協青年部協議会との」JA経済事業に関する懇談会」を開催 ホワイトデー「秋田県産花きPRキャンペーン」を実施しました！	P 5～8 P 9 P 1 0 P 1 1
お知らせ ：	2023年 春の農作業安全月間	P 1 2

次世代の夢と未来をつなぐ！地域農業担い手法人 ～農事組合法人 ファーム夢未来～

1. 設立の背景

農事組合法人ファーム夢未来は、八郎瀧町一日市地区の法人で、平成22年3月に設立されました。秋田県中央部の北緯40度付近に位置し、西に八郎湖、東に出羽丘陵が見える場所に法人があります。設立当初から、地域の農地維持と農業所得の向上を目指し、水稻だけでなく園芸品目にも力を入れ、特に枝豆栽培では秋田県内でも指折りの規模にまで拡大し、大規模経営のモデルとなっています。また、若手を積極的に雇用し、担い手の育成に努めるなど地域農業の先導的役割を担ってきたことや常に問題意識をもちながら課題解決してきたことが評価され、平成27年度秋田県農林水産大賞の担い手・経営体部門の「ふるさと秋田農林水産大賞」を受賞しています。

法人名：農事組合法人 ファーム夢未来
設立：2010年（平成22年）
代表者：代表理事 石川信栄
構成：役員5名 構成員1名
所在地：秋田県南秋田郡八郎瀧町押切

経営の概要

経営耕地 60ha

作付内訳

水稻 34ha

あきたこまち 24ha

ちほみのり（業務用）5ha

たつこもち 5ha

枝豆 26ha（15品種）

（神風香、味風香、黒太郎、茶太郎、
初だるま、夏風香、湯上り娘、とびきり、
とよふさ、ゆかた娘、あきたさやか、
晩酌茶豆、つきみ娘、青豊、雪音）

秋冬季野菜

キャベツ ブロッコリー（露地30a）

ほうれん草、小松菜、べかな、

スプラウトにんにく（ハウス3棟）



2. 経営の特色

ファーム夢未来の石川代表によると「毎年新しい取り組みを行う」をモットーにして、現状維持は前進しないことと同じとの考えのもと、前年の状況を振り返りながら、常により良いものを求めて、一歩でもレベルアップしていくことが特色であると話します。

高密度播種（密苗）や自動水門に取り組んでおり、緻密な計算や数値をもとに、試行錯誤しながら作業の効率化をすすめています。

また、常に構成員の作業状況を確認し、計画どおりの進捗状況かどうか把握しながら、営農を展開しています。

収穫した枝豆はJ A出荷を基本としていますが、法人施設内に隣接する無人直売所でも販売しています。無人直売所で販売する枝豆は、数量制限するほどの人気で、一番の人気である「湯上がり娘」を始め15品種を栽培し、鮮度を保つため枝豆収穫後と粗選別後の2回予冷庫に保存し、販売しています。

枝豆以外にも秋冬季野菜栽培に取り組んでおり、地域住民に還元することを目的に、無人直売所では全て100円で販売しています。

J G A Pにも取り組み、自分たちにできることを丁寧に行い、安全性、情報伝達、S D G sにも取り組み、化学肥料だけでなく、有機質（豚糞）資材の利用や土壌分析による適切な施肥法や近年の気象変動に対応した圃場ごとの栽培管理を行っています。



3. 今後に向けて

人口減少や高齢化などで耕作放棄地が増える中、ファーム夢未来では「地域農業の受け皿になること」を将来の目指す姿としており、次世代農業の主人公となる若手の雇用を大事にしています。

特に「スニーカーでできる農業」を経営方針に掲げ、令和5年度から新たに乾田直播栽培に挑戦するほか、スマート農業による効率化や省力化に対する取り組みを実施しています。

また、新しい情報を取り入れるため、近隣の農業法人との情報交換も怠らず、互いの課題を共有しているとのこと。 「3人寄れば文殊の知恵」といいますが、近隣の法人と切磋琢磨しながらも共存共栄を目指して営農を展開している様子が伺えました。



「野菜」の春の管理作業のポイント

今年の冬は一部地域で積雪が多かったものの、3月に入り雪解けが一気に進んだことから春の訪れが早くなっています。これから野菜栽培が本格的に始まりますが、育苗中の苗の温度管理を徹底し、丈夫な苗づくりに努めてください。

【トマト】

- 育苗中に極端な低温に遭うと、低段花房にチャック果、窓あき果などの障害果が発生しますので夜温は10℃以下にならないよう保温してください。また、ハウス内は午後、気温が20℃より下がらないうちに閉めてください。
- 定植適期の目標となる苗は、草丈30～35cm、茎の太さ7～8mm、1段花房が1～2花咲いた頃です。
- 活着を促進するためにマルチ利用に加えてトンネル被覆による保温、または補助暖房の準備を行い、地温15℃以上を確保してください。



育苗中のトマト

【夏ネギ】

- 春播き育苗の場合は目標とする収穫期に合わせハウス内でチェーンポット育苗します。
- 定植時の苗の大きさは草丈20cm程度、葉数2～2.5枚、太さ2.5mm程度で根鉢が十分形成されていることが目安です。
- 定植は畝幅90～100cm、深さが地表面から15～20cmの植え溝にチェーンポット苗を「ひっぱりくん」で平行に引っ張りながら行います。また、植え付けにあたってはチェーンポットの根鉢が土で隠れるようにしてください。



チェーンポット苗の定植作業

【アスパラガス】

- 消雪後、萌芽の20日前を目安に堆肥と基肥を畝間（通路）に散布し、軽く中耕します。施肥量は栽植経過年数に応じ加減してください。
- 施肥後、雑草対策として萌芽前（雑草発生前～発生始期）にロロックス（除草剤）か、萌芽前～萌芽始期（雑草発生前～雑草4、5葉期）までにセンコル水和剤（除草剤）を散布します。
- 4月から5月の始めにかけては晩霜による若茎の被害が心配されます。
凍霜害による被害が発生したら無駄な養分を消耗させないため、早期に被害茎を地際から除去してください。



一斉に萌芽したアスパラガス

コスト低減に向けた「農業機械の共同購入」の取り組みについて

J Aグループでは、生産者の生産資材コスト低減のため、「共同購入」に取り組み、第1弾として大型のトラクター（令和3年3月末供給終了）を3か年で2,214台、第2弾の中型トラクターを令和2年12月の取り組み開始から1年半で2,800台を出荷し、生産者から高い評価を受けています。

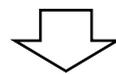
「共同購入」の第3弾として、主要機種（トラクター、田植機、コンバイン）のなかで、最も利用経費が高いコンバインの共同購入への結集を呼びかけ、取り扱い台数1,000台（期間：令和6年4月～令和9年9月）を目標に、生産者からの事前購入申し込みの取りまとめに取り組んでいます。

第3弾は、4条刈り50馬力のコンバインを予定していて、必要な機能を集約し「生産者が必要な機能を厳選したコンバイン」をコンセプトに開発を依頼しています。エンジン出力は50馬力クラスで燃料タンク容量は無給油で概ね1日作業ができる（約6時間）性能を求め、車体水平制御、幅広クローラ、刈取オートクラッチ、掻きこみペダル・スイッチ、オーガ自動制御（旋回、収納）、大型後方ミラーを標準装備としています。

また、オプションは、防塵カバー、作業灯（こぎ口、オーガ先端）、無線オーガリモコンとしています。

4条刈りは1ha層から20ha層まで幅広く使われている実態があり、乗降時や機体転倒時の乗員保護、補助者への接触防止など、安全性も考慮し、付帯事項として、コンバインを長く使うため日常点検・調整・消耗品交換の容易化、各稼働部の耐摩擦性・強度向上を図ることや転作も見据え、大豆や子実トウモロコシなどさまざまな転作に対応できるコンバインのラインナップやその装備の拡充を進めることなどを求めています。これらの共同購入では通常機価格より引き下げの実現を目指しています。

お申込みはこちらから



**令和5年6月まで
事前申込の受付**



Webからも申込みいただけます！

共同購入 第3弾

生産者 & JA 全国7千件以上の声を反映して 機能を厳選

共同購入コンバイン

4条刈50馬力クラス

事前申込
受付中

生産者の皆さまの申し込みが、低価格実現の大きな力に

大型・中型トラクターは、全国の生産者の皆様の共同購入への結集により、標準機と比較して約2割～3割の低価格を実現できました。第3弾として、利用経費が高いコンバインについて、全国7千件以上の生産者アンケートおよび稲作生産者との意見交換をもとに必要な機能を厳選し、メーカーへ開発要求をおこないました。現在、全国の生産者の需要結集にむけ、事前申込書をとりとめる取り組みを実施しております。みなさんの事前申込書が、低価格実現の大きな力となりますので、ぜひご協力をお願いします。

要求した主な機能

車体水平制御

幅広クローラ

刈取オートクラッチ

掻き込みペダル・スイッチ

オーガ自動制御(旋回、収納)

大型後方ミラー(左右)

1日作業可能な燃料タンク

※機能詳細等は表面をご覧ください。



令和5年6月まで
事前申込の受付



Webからも申込みいただけます！

令和6年1月以降
製品と価格のご案内

令和6年4月以降
出荷開始

共同購入とは、JAグループで生産者の需要をとりとめ、全農が生産者の代理人として一括発注・仕入をおこなうことで、製造・流通の効率化をはかり、生産者へ価格メリットを還元する取り組みです。

JAグループ / 全農

生産者が必要な機能を厳選したコンバインの開発要求内容

4条刈・50馬力クラス

国内出荷台数およびJAグループ取扱台数が多い機種を選定し、共同購入として需要結集します。車体サイズは、保管や圃場間の運搬手段等を考慮し、現行の4条刈・50馬力クラスを原則維持します。

車体水平制御

機体の傾きを水平に保つ機能です。湿田等でも安定した姿勢で作業できます。

幅広クローラ

幅の広いクローラを装着していることにより、クローラの接地圧が小さくなり、機体の沈み込みが少なくなります。湿田での作業性が良くなります。

刈取オートクラッチ

刈取部を上昇させると刈取部が自動停止する機能です。旋回時の刈取クラッチ操作が不要になります。

標準装備またはオプション設定

- 防塵カバー ●作業灯(こぎ口、オーガ先端) ●無線オーガリモコン

■主要諸元

機体	全長(カッター付き)	指定なし	
	全幅	2,010mm以下	
	全高(キャビン無し)	2,260mm以下	
	機体質量(カッター付き)	指定なし	
エンジン	出力(グロス)	45ps~55ps	
	燃料タンク容量	無給油で概ね1日作業が行えること	
	その他	排ガス規制対応	
走行部	クローラ	幅×接地長	幅:450mm以上 × 接地長:指定なし
		平均接地圧	0.21kgf/cm ² 以下
	変速方式	HST無段変速	
	変速段数(段)	前後進:無段 副変速:指定なし	
	旋回方式	常時駆動ノフトターンが行えること	
	走行速度(前進・後進)	指定なし	
	最小旋回半径	指定なし	
刈取部	刈取条数	4条	
	デバイダ先端間隔	1400mm以上	
	刃幅	1400mm以上	
	変速段数	車速同調 + 引起し変速2段以上	
	こぎ深さ調節方式	電動式(自動・手動併用)	
脱穀選別部	脱穀方式	下こぎ軸流式	
穀粒処理部	穀粒処理方式	グレタンク	
	タンク容量	1000L以上	
	排出方式	オーガ排出	
排わら処理装置		マルチカッタ(切断長:指定なし)	

掻き込みペダル・スイッチ

ペダルやスイッチ操作により刈取・搬送部を駆動することができ、四隅を刈るときなどの裨こぼれを防止します。

オーガ自動制御(旋回、収納)

設定した位置や収納位置まで、ボタン等の操作で自動旋回することができる機能です。

大型後方ミラー(左右)

大型の後方ミラーを設置することで、後方の視認性が良くなります。

1日作業可能な燃料タンク

燃料満タンで、おおよそ6時間(1日の一般的な刈取作業をおこなう時間)の作業ができます。

共同購入コンバイン(4条刈・50馬力クラス) 事前申込書

※この申込書は契約書ではありません。

全国の生産者が共同購入に結集し、低価格を実現しよう!

- ・みなさんの事前申込書が低価格実現の大きな力になりますので、ぜひご協力をお願いします。
- ・事前申込みをいただいた方には、令和6年1月以降に製品と価格をご案内いたします。

氏名	フリガナ	
	(法人・営農集団の場合) 代表者: 担当者:	
住所	〒 -	
連絡先	TEL:	Email:
JA	JA名: 農機センター名:	担当者名:
経営形態	①個人(専業農家) ②個人(兼業農家) ③法人・会社 ④営農集団・集落営農 ⑤その他()	
品目 作付	品目	作付面積(ha)
	米	
	麦	
	その他()	
保有機	刈取条数	型式
		<input type="checkbox"/> 三菱 <input type="checkbox"/> クボタ <input type="checkbox"/> ヤンマー <input type="checkbox"/> 井関
質問 ①	共同購入コンバインの購入意向はありますか。	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
意向ありの方は、以下をお聞かせください。		
質問 ②	購入希望時期	<input type="checkbox"/> 令和6年9月まで <input type="checkbox"/> 令和8年9月まで <input type="checkbox"/> 令和7年9月まで <input type="checkbox"/> 令和9年9月まで
質問 ③	共同購入への期待について、皆様の声をお聞かせください。(自由記述)	

個人情報の取り扱いについて:この申込書はJAグループ農機事業で取り扱う商品やサービス向上のために使用します。



JAグループ「秋田米新品種サキホコレ研究会実績報告会」を開催

JA全農あきたは3月2日、秋田市でJAグループ「秋田米新品種サキホコレ研究会実績報告会」を開催し、会員JAの生産部会等の代表、JA担当者らが出席しました。

会議では、令和4年産サキホコレの集荷と販売状況、サキホコレ研究会の活動、有機入り肥料の効果確認試験結果について報告したほか、令和5年の生産・販売方針（案）や事業計画（案）について協議しました。

また、会員JAからは令和4年産米の生育状況や5年産の生産概要について報告し会員JAと情報共有したほか、JA全農あきた米穀部の児玉徹参与が4年産サキホコレの生育概況と5年産の栽培へのポイント等を説明しました。

基調講演には、東京都調布市に本店がある株式会社山田屋本店の6代目秋沢毬衣さんをお招きし、販売する側の視点から4年産「サキホコレ」の評価と、これからの販売戦略上のキーワードについてご助言をいただきました。

JAグループ「秋田米新品種サキホコレ研究会」の佐々木竜孝会長は「米卸は品質、生産量の安定を求めている。我々生産者は高品質なサキホコレ生産に尽力し、販売促進につながることを期待している」と話しました。



JAグループ

「秋田米新品種サキホコレ研究会」

佐々木竜孝会長のあいさつ



山田屋本店の秋沢毬衣さんによる基調講演



「秋田県農協青年部協議会との」JA経済事業に関する懇談会」を開催

3月3日、秋田県農業協同組合青年部協議会とJA秋田中央会、JA全農あきたの関係者30人が出席し、「JA経済事業に関する懇談会」が開催されました。

JA全農あきたの小林和久県本部長は「新型コロナウイルス感染症は落ち着きつつあるが、紛争の影響を受け、世界の需給バランスが崩れ、原材料・石油等の値上げが続いている。農業に必要な肥料・飼料・資材等が高騰しているなか生産者の経営が圧迫されていると痛感している。JAグループ・青年部協議会・行政が一体となり、『自助・共助・公助』を総動員し難局を乗り越えていくための課題解決に向け努力する」とあいさつしました。

懇談会では、JA全農あきたの営農支援部・米穀部・園芸畜産部・生産資材部から各部門の取り組み報告と、消費者への理解醸成について意見交換を実施しました。

青年部協議会からは、令和4年産に本格デビューした「サキホコレ」の今後の推進方策や、県内における飼料用米の品種の考え方、生産資材費・燃油・光熱費等の上昇にともなう再生エネルギーの利用についてなど、多岐にわたり質問や意見が出されました。

今後も青年部協議会・JAグループが一体となって情報発信をはかり、理解醸成に努めてまいります。



JA全農あきた 小林和久県本部長



秋田県農業協同組合青年部協議会 齊藤拓委員長

ホワイトデー「秋田県産花きPRキャンペーン」を実施しました！

あきた園芸戦略対策協議会（事務局：JA全農あきた）は3月11日、秋田県産花きの消費拡大と秋田県内外の多くの方に「秋田の花の美しさ」に触れてもらおうと、ホワイトデーにあわせて「秋田県産花きPRキャンペーン」を行いました。

秋田市のJR秋田駅ぼぼろードで行なわれたキャンペーンでは、JA大潟村産チューリップ赤色、白・赤色、白・ピンク色の3種類を用意し、「ミス・フレッシュ秋田」やJA全農あきたの関係者らが通行人に1,000本プレゼントしました。

卒業式シーズンということで制服姿や袴姿の女性も多く、「かわいらしい」「季節感を感じる」「このままプレゼントしたい」と大変喜んでいただきました。

JA全農あきたは今後も業界一体となって県産花きの魅力を積極的にアピールしていきます。



JA大潟村産のチューリップは東北で唯一市場出荷しています。



2023年 春の農作業安全月間

農作業事故防止を目的に、JAグループでは、令和5年3月から5月までを「春の農作業安全月間」と定めています。耕起作業や田植作業などで忙しくなる春は、転倒、転落などの農作業事故が起きやすくなります。作業時は、万が一の事故に備えてヘルメットを着用し作業に適した服装で、シートベルトを締めて作業をしましょう。

また、十分な機械の点検整備をおこない、農繁期にはゆとりある作業ができるように心掛けましょう。



デザイン/2023年農作業安全がスターデザインコンテスト 日本農業新聞社 三原 福太郎

2023年 春の農作業安全月間



Za・あぐりふおーむ
Zennoh-akita agriculture+reform

JA全農あきた営農情報誌 Za・あぐりふおーむ
第38号 令和5年4月5日発行

編集・発行 JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒010-8558秋田市八橋南2丁目10番16号 018-864-2462